



私は、昭和 30 年 42 歳の時、クモ膜下出血を発症し、松本市内の相澤病院に緊急入院しました。当時、同病院脳神経外科にお勤めの一之瀬良樹先生のオペを受け、約 6 ヶ月間の闘病生活の後、翌年仕事に復帰することができました。爾来、先生が独立され

一之瀬脳神経外科病院を開院されてからも、診察にお伺いし、延べ 36 年間お世話になっています。現在、小林新院長には、2 ヶ月に一度診察のため、妻と通院しています。最近、院長から血圧の数値が少しずつ改善している旨のお話を聞き、大変嬉しく感謝しております。

さてこの度、同病院誌「せせらぎ」への寄稿依頼があり、私達夫婦が健康を求めて、マレットゴルフに挑戦している姿をご紹介しますと思います。

ウォーキングを始めたのは、平成 29 年 4 月からです。自宅から 15 キロ程離れた松本空港の周辺コースを選び、週 3 回、2 時間程度無理のない計画をたてました。1 年間コンスタントにウォーキングを楽しんでいた或る日、妻から「ただ単調に歩いていても面白くない。ストレスの解消にもならないので、最近流行のマレットゴルフに転換しないか。」と自分の気持ちを突然吐露しました。徒歩は、忍耐強さを要求される運動であり、直ぐに成果が出ません。妻のマレットに対する情熱も十分理解できるので、申出を快諾しました。私は、ルール、マナー、技術的なことは、ゴルフと或る程度共通点があるため別として、初心者の妻を教えることに重点を置き、近くのマレットゴルフ場で特訓を開始しました。



この様にして、我が家のマレットゴルフ珍道中がスタートした次第です。私達はマレットの面白さと醍醐味を知り、2～3日に一度の割合で、コースを闊歩しています。スティックで直径10センチのボールを打つ時の、「カキーン！」との快音と両手への感触振動は体験者でないと理解できない魅力です。最近では、地域の大会に参加して、腕を磨いております。皆さん、健康増進、夫婦円満(?)のためにマレットゴルフを始めませんか。老若男女、年齢を問わず、どなたにも楽しめる奥の深いスポーツです。私は、長年プレーしてきたゴルフを封印して、マレットゴルフに夢中になっています。安曇野市明科御宝田水のふるさと公園、同豊科水辺公園、同三郷黒澤各マレットゴルフ場は、ホームコースです。

さて、ゴルフ以外の趣味は、写真撮影があります。何処へでも、車で飛んで行きます。1日130キロを走破し、子供達からは「年齢を顧みない、無鉄砲な親父」と揶揄されています。撮影エリアは、長野全県下。時には、遠く新潟県にも足を延ばし、途中、新鮮美味しい魚介類を、買って帰ることが楽しみの一つです。恍惚の人と言われたい様、自分を鼓舞し、色々なことに、チャレンジしている昨今です。



残雪の乗鞍岳と高原のレンゲツツジ